

子宮内膜受容能検査（ERA・ERPeak）

胚移植に最適なタイミングを調べる検査です

健康な胚を移植しても、その胚を受け入れる準備ができていなければ妊娠に至らないことがあります。子宮の内側には子宮内膜と呼ばれる組織があり、一定のサイクルで胚を受け入れる準備を行います。胚にとって最も着床しやすい子宮内膜環境が整う期間（受容期）は「着床の窓」と呼ばれています。「着床の窓」には個人差があり、人により時期が早い、遅い、長い、短い、などの違いがあります。検査を受けることで自分自身の「着床の窓」を調べることができ、適切なタイミングで胚移植を行い、妊娠の確率を高めることができます。

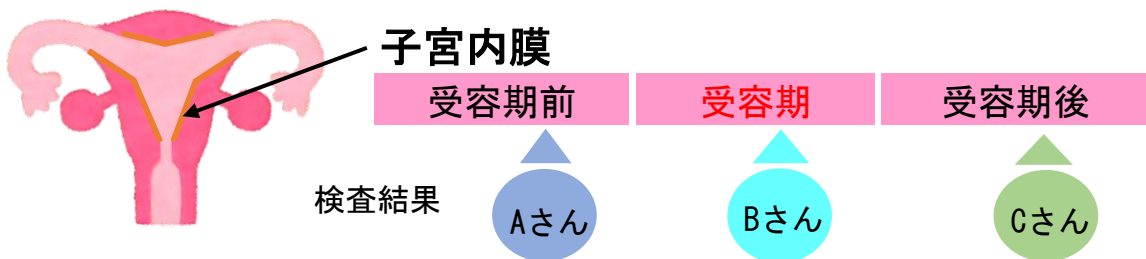
対象

胚移植を繰り返しても妊娠に至らない反復着床不全の患者様

検査方法

通常の凍結胚移植と同じスケジュールで薬剤を使用し、移植のタイミングで移植をする代わりに子宮内膜組織の一部を採取します。

※この周期には移植はできません。



★検査結果を受けて次周期以降の計画を立てます

- Aさん：着床不適（早すぎる）

黄体ホルモン投与開始から移植日までを長くします

- Bさん：着床可能（適）

今までと同じ、通常のスケジュールで移植します

- Cさん：着床不適（遅すぎる）

黄体ホルモン投与開始から移植日までを短くします